

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を介護を行う上での基本と捉え、入居者の一人ひとりに何が必要であるのかと考え、一日一日を大事に安定した生活が送れるようにと職員一人ひとりが理解している。	○	今後、より地域に根ざした運営ができるように理念の見直しをしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げ、介護を行う上での基本として捉え日々の介護を行っている。管理者も介護職員の一員として、毎日のミーティングや月毎の職員会議に参加し、全職員が理念を共有しながら実践に取り組んでいる。	○	今後、理念を見直し地域との協同を重視したものにし、全職員が共有し、その上で実践に向け取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議においてご家族や地域の代表の方々にホームの考え方・理念・方針等説明し理解を得られるようにしている。家族会と運営推進会議を同時開催し利用者・ご家族・地域住民との交流を持っていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩などで出会う近隣住民の方々には声を掛け合い軒先でお茶を頂くなど交流を深めている。栽培した野菜を持参して声をかけてくれたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り・地域運動会・避難訓練・中学校の文化祭等の行事に参加させていただくなど地域との交流を深めている。地域の大正琴の会の方々に発表会を通しての交流会や地域の紐草履の講師を招いて講習会など開催している。	○	地域住民との連携を密にし、地域に開かれた事業所を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民とともに大規模な避難訓練を行うことで災害発生時における対応方法などを通じ、高齢者への対応方法を検討している。運営推進会議では委員の方々から相談を受け解決へと取り組んでいる。	○	認知症専門施設として地域内における相談受付や情報発信ができるように地域の中での役割が担えるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員勉強会の際に自己評価・外部評価の意義について理解し職員全員で取り組んでいけるようにしている。日々の活動を見直し気付きを持てる機会と考え、評価結果を今後のケアに反映できるように取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームとしてのあり方や当事業所の概要、運営、ケア内容等について説明し協議を行っている。日常を理解していただけるように家族会と同時開催してより多くご理解をいただけるようにしている。	○	2年目を迎え、形式的にならずより実のあるものにできるように新たな委員の選定も検討していきたい。今回の自己評価・外部評価を有効に活用し、活発な意見交換・討論の場にしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の市町村担当者として、地域包括支援センター職員に委員として参加していただいている。運営や制度に関して問題点などは必要に応じ相談・指導を受けている。	○	サービスの質の向上に向けた取り組みという点では連携が取れていないため今後検討して行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同法人内で権利擁護事業に携わっていることもあり、全職員が法人内での研修に参加している。事業所内においても勉強会を行い知識の習得へ努力している。また該当すると思われる方やそのご家族へはアドバイスや情報を提供している。	○	職員の入れ替わりなどもあるため、定期的な勉強会により、職員全員が知識を持ち支援に活かせるようにしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や勉強会で取り上げ学んでいる。事業所内での虐待に関しては利用者をケアする上で言葉がけによる行動の制止も身体的拘束であると考え、本人・ご家族へ説明を行い経過記録を記載し定期的に必要な性に関して検討している。	○	継続的に勉強会などで取り上げ、今後も虐待防止に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を用いて説明を行い理解、納得を得ている。不安、疑問点については重点的に説明し解決を図っている。長期療養による退所(解約)時には、継続した相談やアドバイスを実施することを説明し不安の軽減に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症高齢者であるため日ごろの会話や言動から不満や苦情を汲み取るように心がけている。受け止めた情報は職員間での共有に努め、改善に向け職員会議で話し合いを行っている。長野市より「介護あんしん相談員」の派遣を受け外部者へ表出できる機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来所時やご家族の状況に応じて電話連絡等にて状況報告を行っている。暮らしぶりなどは日ごろの状況がより伝わればと考え写真などを送付し入居者の近況報告を行っている。金銭管理はご家族の来所時に出納簿をそのつど確認していただいている。	○	今後は施設だよりなど作成し、より日々の状況を伝えられるように検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内において苦情解決体制を設け第三者委員を依頼し相談窓口を拡げている。ホーム内に要望箱の設置や苦情解決体制について掲示している。家族の来所時には話を伺う機会を設け、運営推進会議には毎回違った家族に出席していただき意見を表出できるように努めている。	○	現状において家族等からの苦情は聞かれていない。苦情が聞かれないことは苦情がないことではないので、今後は家族とも密な情報交換ができるよう一層努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において運営状況など報告し、職員の意見を汲み取り、法人内で2ヶ月に1回開催される「生活相談員連絡会議」にて運営者へ報告・相談行うとともに鬼無里地区事業所長は職員会議に同席し職員の意見を運営に反映させている。	○	現状では年1回スタッフの個別面談を行っている。今後は定期的に行うことを検討し、個々の職員の考えを個別に把握する機会として、また皆に同じ目的で仕事ができるように実施していきたい。不満や苦情を解消して、より働きやすい職場を実現していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化や突発的な状況に対応できるような勤務体制に努めている。その必要性に関して職員が理解し協力体制ができています。	○	現状での職員体制では柔軟な対応としては限界がある。職員確保という点からも今後検討して行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での人事異動や職員採用があり、一事業所単位で成し得ることに制約がある。地域柄や勤務体制もあり異動は極力行わないように配慮している。	○	事業所内ででき得る方策を検討し、職員が勤務を継続することができるように心がけていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員ができるだけ均等に研修に参加できるように配慮している。法人内で研修が定期的に行われており、学習できる機会を多く持っている。受講した研修の報告は、報告書を作成するとともに事業所内での勉強会で講師となり職員全体で共有できるようにしている。	○	スタッフの習熟度に応じた研修を計画的に行っていく工夫をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域のグループホームをネットワーク化する取り組みへ参加し、交流する機会を持っている。認知症のケース検討会へ参加し、質の向上に向け努力している。	○	地域グループホームのネットワークを活用し、関係や協力体制をとっていくとともに、相互訪問や共同での勉強会や研修会を行い、サービスの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員研修にてメンタルヘルスについて取り上げ学習している。年1回鬼無里事業所長による職員面談を行い各職員の不満や不安を個別に表出できるように配慮している。	○	スタッフ間の交流を密にし、不安不満を抱えないように日常から表出できるような関係作りに努めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、個々の職員の勤務状況や意見を把握できるよう務め、各職員が向上心を持って働けるよう努めている。	○	出来る限り時間を確保し、各職員の意見を聞けるよう努め、より働きやすい環境作りを目指したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時には可能な限り本人と家族とで施設見学をしていただき、その際に話を聞くようにしている。入居前には自宅訪問をし本人の落ち着いた環境の中で更に話を聞けるようにしている。「話を聞くこと」に重点を置き、入居に際して相談員と少しでもなじみを深め安心できる人間関係を作れるように配慮している。	○	施設見学の機会を多くしたり、介護サービス利用者であれば担当ケアマネージャーやサービス担当者と共に自宅訪問し、個人の思いを表出しやすくして行くことも必要で、十分に受け止めた上で入居できるように努めて行きたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からも話をよく聞き、本人の思いと家族の思いの違いを知り、信頼関係が構築できるように考えている。本人から離れ、家族だけから話を聞ける機会を持ち、家族の抱えている悩みや不安を受け止める努力をしている。	○	複数回の面談の機会を持ったり、同居家族以外の関係者の話を聞くなどして、幅広く意向を汲んでいけるよう努めて行きたい。
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人とその家族が必要としている支援を見極めた上で、アドバイスをしている。担当ケアマネージャーや在宅介護支援センター・地域包括支援センター等にも相談し、対応方法を検討している。	○	他のグループホームとの連携を持ち、利用者の受け入れがスムーズに行えるように連携体制を構築して行く。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設見学に来ていただき、本人の理解、了承が得られるようにしている。介護サービス利用者であれば担当ケアマネージャーやサービス担当者と共に自宅訪問し、生活相談員との面識を深め、職員とのなじみの関係を築ききっかけとなれるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側とされる側を作らないように、日頃から職員間で確認している。ゆったりとした時間をともに過ごすことで、喜怒哀楽を得られるように心がけている。また、ご本人の力を発揮できる場面を作っていくことを重要と考えている。日常生活の中では職員が教わることが多い。	○	高齢化、重度化していく利用者でも、サービスを提供する側とされる側だけの関係に陥らないように心がけていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された際にコミュニケーションをとり信頼関係を築いている。ケアプランの中で、可能な限り家族に担ってもらえるような役割を具体的に盛り込むようにしている。ターミナルケアを行う際にはご家族に付き添って頂き、職員ご家族が協力し合いケアを行っている。	○	ご家族とより対等な関係で利用者への支援を考えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居申込や入居前面談、介護支援専門員からの情報により、家族関係を理解した上で、ケースに応じた支援を検討しています。家族会の際には職員全員が出席し、ご家族との交流を深め、意見を表出できるように心がけている。	○	「施設の職員の皆さんにお任せです」というご家族もあり、疎遠になってしまうケースもある。家族関係に配慮しつつ、「家族にしかできないこと」を一緒に考え、ご家族との関係を深めて頂けるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し可能な限り外泊や外出をして頂くことで協力を得ている。家族のみならず、友人等馴染みの深い方はいつでも来所できるようにご家族を通し声掛けをしている。日々の会話の中にも、馴染みの場所や人の名前を話題として提供し、関係を途切れさせないように考えている。	○	より機会を増やしていけるような工夫をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有空間に集まって生活していることが多く、利用者同士が関り合い、助け合いながら生活されている。職員はそれぞれの関係を把握し、関係作りや場作りに配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期療養などで退所された方に対し、退所後のサービス利用等について可能な限り相談していただけるように伝えている。	○	関係が継続できるのは、まれなケースだけである。今後はご家族に伝え、継続的なフォローを検討していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、個々の利用者の思いや希望を伺い、介護に反映するように努めている。センター方式によるケアマネジメントを取り入れ、できる限り本人の意向を汲み取る努力もしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族も含め面談したり、自宅へ訪問調査にて情報収集し把握に努めている。センター方式を活用し情報をまとめており、これまでの暮らし方や人生経験やその人らしさをつかむ努力をしている。	○	一通りの情報収集とならず、ケアに繋がられるように職員間で共有していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活パターンや暮らし方を把握し、生活の流れの中でケアが出来るように心がけている。それぞれの方の持っている能力や出来ることに注目し、日々の生活に活かせるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者が中心となって、本人がより良く暮らすために、チーム全体が関わりケアプランを作成している。本人の意向を可能な限り汲み取り、家族の意向も反映させ出来る範囲で協力を得られるように作成している。	○	日々の介護とケアプランが連動できるような記録方法や些細な状況変化に応じてきめ細かいプランの修正が出来るようなケアマネジメントを検討して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的なモニタリングと見直しを行い、6ヶ月にてプランの変更を行っている。状況が変われば、ミーティングを行い、主治医の意見を取り入れ家族と話し合い、ケアプランを変更している。	○	本人がより良く生きがいを持って生活できるよう、本人の意向が盛り込まれ、一つひとつ小さな目標や希望を持ち、細かな期間を持ち達成していけるようなケアプランを作成できるよう工夫を重ねて行きたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とケア記録を作成し、職員間の情報共有に努めている。また、毎日2回ミーティングを行うことで、情報共有と意見交換を行い、日々の介護に活かしている。	○	今後も工夫を重ね、しっかりとした情報把握と共有に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診など日常的な要望に対し、同地区社会福祉協議での移送サービスを利用している。急な体調不良も含め日常的な受診も診療所からの往診を優先的に行って頂き対応している。	○	今後も、ご本人・ご家族の要望を受け止め、柔軟に対応できるよう努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	美容ボランティア・掃除ボランティアなど民生委員や地域の方々・ご家族に協力を得ている。消防署・消防団・地区区長等の協力を得て消防訓練を実施している。中学生との交流会や小中学校から年間行事への招待を受けたり等教育機関からも支援を受けている。	○	運営推進会議を通じて、より地域の方々との共同の体制を築いて行きたいと考えている。今後、委員の再検討を加えより広く地域の方々に知って頂き、グループホームを地域資源として活用していただけるような協同体制を築いて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用していた、サービス事業所を訪問したりと交流を持っている。在宅介護支援センターや福祉用具業者の協力のもと、利用者へのサービスの充実を図っている。	○	グループホームで有効に活用できるサービスを広く検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂いている。必要に応じ、指導・助言・紹介などの協力を得ている。	○	成年後見制度の利用や、地域ネットワーク作りに関して協働していけたらと考えている。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の大半が当地域住民であるため地域診療所の医師がかかりつけ医を継続している。立地条件等から個々の希望に応じたかかりつけ医との継続的な関係を保つことが困難なため、入居の際に地域診療所医師に主治医として頂き、随時適切な医療を受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行状態の診断や治療の必要なケースについては、主治医・家族と相談して専門医の受診を検討している。受診の際には、日常生活状況等も情報提供し診断・治療に活かせるよう支援している。	○	現状では認知症専門医や専門的な助言・相談に応じて頂ける医療機関が確保されていない。早急に地域の中で確保して行きたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を配属し、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬管理、医療機関との連絡、体調不良時の対応など行っている。保健センター保健師や診療所医師・看護職員・理学療法士など相談し、助言・指導を受けている。	○	今後もこの体制を維持し、スタッフの医療的な知識・技術・判断力の向上に繋げて行きたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症である利用者は、入院によるダメージが大きいことを最大限考慮し、生活状況等情報提供を行っている。入院期間中は定期的に訪問し、本人・家族・医療従事者より情報交換し、早期退院に向け支援し、可能な限りグループホームでの生活が継続できるように支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の中でターミナルケアに関する指針を掲示しご家族へ説明している。また機会があるごとにご本人の意向を鑑み、家族と相談している。状況に応じて、改めて関係者と話し合い方針を検討している。	○	ターミナルケアに関しての勉強会や、スタッフ間の共通意識の構築は、継続的に行って行く必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設より3名の利用者を見送っている。職員は、グループホームで出来ることを確認、ご家族も納得の上で、本人が安心して過ごせる環境に配慮している。主治医と連携を密にし頻回な往診にて対応し、ご家族には十分に納得できる説明を加え、可能な限り付き添って頂き看取りを行っている。職員は状況を的確に捉え判断でできるようにカンファレンスを蜜に行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを最小限にすることを考え、移動先に基本情報・生活の様子・健康状態などの情報提供を行って、ケアが継続されるように配慮している。	○	現在、センター方式を採用し情報整理を行っている。その様式を活用し情報提供を検討している。転居後の訪問など行い少しでもダメージを軽減できる方法を検討して行きたい。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念の中に謳っており、職員はケアを行う上で基本であると捉えている。プライバシーの尊重、守秘義務は研修等で徹底を図っている。守秘義務に関しては契約内容であり、また、家族へ説明し入居の際に同意書を取り交している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活行為や援助に対し、説明・同意を得てから実施している。自分の意思や考えで決めるという力を尊重している。しかし、認知症状により意思疎通が困難な状況においては、表情や素振りなどから判断して気持ちを汲み取るように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誕生会や外出・行事などの日課があるとき以外はその日の天候や入居者の皆さんの希望を反映したり、職員の提案により生活を送っている。カルタとり、体操、野菜の収穫、散歩などの希望がある。また、寝ていたい時や延食したときなども支障がない範囲で意向を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは、個々の利用者の意向に沿って身支度を整えられるように配慮している。着たい服を選択できるように声がけをしたりしている。理美容に関しては、立地条件を考慮し訪問理美容を利用している。	○	訪問理美容を利用しているが、理・美容の選択やカットの長さや白髪染めなど選択できるように配慮して行きたい。なじみの美容室などへ行くことが出来るように支援を検討して行きたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意向や力に応じて食事の準備・片付けなど行って頂いている。それぞれの利用者の役割ややりがいになっており、楽しみになっている。農園で収穫したもので何を作るか話したり、郷土食である「おやき」を作る際には職員が教わりながら調理している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気などにより制限がある場合を除き、個々の嗜好は大切にしている。現状では、日常的に飲酒・喫煙されている方はない。コーヒー、紅茶、ココアなど好みにあわせ選択し楽しめるように配慮している。	○	嗜好の中で酒類の摂取は控えて頂いている。今後、ご家族や職員の理解・協力を得て、日常生活の中で楽しみが持てるように支援して行きたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアチェック表の記載や日々の関わりから、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声がけ・誘導を行いトイレでの排泄ができるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人の希望や生活習慣を考慮して、入浴時間や回数を決めている。健康状態の配慮や事故防止に気をつけながら、出来るだけ本人がゆったり入浴できるように見守っている。皮膚疾患などある方には洗身方法や洗剤の検討をし個々にあわせて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンの把握に努め、本人の生活パターンの中で休息が取れるように配慮している。日中の活動を活発にし、適度の疲労感から自然に休めることを基本にしている。不安で寝付けない方には職員が寄り添い、時には添い寝することもある。	○	生活リズムを整えることで出来る限り睡眠導入剤の利用は控えている。本人が不眠のため苦痛と考えているのなら使用を検討するが、日中の活動性が低下してしまう場合には主治医と相談し検討を重ねて行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることを見出して役割を持っていただき、それを自信や活力につなげられるようにしている。一緒に行ったり、職員に教えたりとして頂くことに感謝の言葉を伝えている。散歩や機会に応じて外出をして気晴らしへの支援も行っている。	○	趣味を活かしての外出、買い物などの役割としての外出、習慣としての散歩など外に出て行く機会を増やし、活力ある生活が送れるよう行動範囲の拡大につなげて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は、ご家族の了承のもとに自己管理している方もある。機会があるごとに近くの商店で買い物や、受診後の支払いなどしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の状態や希望を取り入れ、施設周辺への散歩は日常的に行っている。農園での作業や近所のグラウンドでのゲートボールを日課にしている利用者も多く、戸外へ出かけることは多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を作成し、行事にあわせさまざまな所に外出できるようにしている。機会にあわせ外出なども出来るようにしている。ご家族に協力を得て、希望に応じて、お墓参りや自宅へ行くことなど支援している。	○	より個々の希望を汲み取り、その希望にあわせた外出支援を行えるようにしていきたい。近隣だけでなく、外出・外泊旅行などの機会ももてるよう検討していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話を希望することは少ないが、家族からの電話の際には話しが出来るように支援している。また、不穏時家族と話すことで気持ちが安定することがあり、状態に応じて連絡している。家族と手紙のやり取りをし文通している方もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や面会人の制限はない。ご家族や関係者には出来る限り面会によっていただけるように話をしている。年2回の家族会などには、日ごろ来られないご家族もみえて、気軽によっていただけるきっかけになっている。	○	地域からの入居者が多い中で、家族以外にもそれまでの関係や交流が継続できるように支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを職員全員で確認している。勉強会の中でも取り上げ再確認している。利用者をケアする上で言葉がけによる行動の制止も身体的拘束であると考え、本人・ご家族へ説明を行い経過記録を記載し定期的に必要な性に関して検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は勝手口以外は施錠できる箇所はなく夜間以外は施錠していない。玄関には風鈴を設置し、個々の利用者の行動パターンを理解し、注意を払うことにより、危険の回避に努めている。	○	離設のリスクに対し、警察・消防・市役所支所の協力を依頼することや、近隣住民や郵便配達員など地域全体へ理解・協力を得られるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを尊重しながらも、各利用者の所在確認と安全確認に努めている。日勤帯は職員間で連携をとりながら安全確保し、夜間は定時的に重視をしたり些細な変化にも注意しながら安全確保に努めている。記録や見守りを行う際にも職員の場所にも工夫し利用者の動向の把握や必要な対応が出来るようにしている。	○	利用者の重度化が進む中で、安全確保がより難しさをもってきている。離床センサーの活用など様々な工夫と職員の意識を高めることで安全確保に努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に合わせ、持ち物に関しては安全性を考えている。洗剤や薬剤は所定の場所に保管し、職員は常に所在の確認を行うようにしている。内服薬等は自己管理が可能な方以外は事務所にて管理している。刃物を扱う際には職員が付き添い、見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの行動パターン、身体状況などを的確に把握し、個々に合わせた事故防止策をカンファレンスにて確認している。ヒヤリハット報告書や事故事例に関しては事故報告書を作成し、スタッフ間で対応策や解決策を検討し事故防止につなげている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救急救命講習を受講している。勉強会の際にも取り上げ、訓練を継続している。緊急時職員連絡体制なども整備し、必要な職員がいち早く駆けつけられるように訓練も行っている。	○	緊急時の対応には十分な訓練と状態を判断できる知識も必要であるため、定期的な訓練の継続と知識向上に努めていきたい。AEDの設置や異物吸引器具などの設置も検討していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけを行っている	年2回避難訓練を行っている。その内1回は夜間に行い消防署・消防団・地区自主防災会・行政の協力を得て実施している。近隣住民による避難誘導や地域全体への通報など訓練を行っている。全職員が普通救急救命講習を受講しており、急変時に備え事業所内で勉強会を行っている。	○	訓練を重ね、地域との協力体制を密にし、より具体的な避難方法の検討を進める必要がある。災害発生に備え施設内での備品整備も行っていきたい。災害時対応マニュアルの拡張も進め、様々な災害状況への対応策も検討を進めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	身体拘束を行うことのない生活のなかで起こりうるリスクについて入居前からご家族に説明し理解を得ている。服薬による管理を受けてきた方もあったが、ご家族も含め認知症の理解や事業所としての取り組みや考え方を説明し、理解を頂き、その人らしい生活をと支援している。	○	今後もよりこまめにご家族と話す機会を持ち、より活気あるその人らしい暮らしを送れるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い排泄状況、食事摂取状況などを含め健康管理に努めている。日ごろのかかわりの中から些細な変化に気付いたら看護師を中心に情報の共有に努め早期対応に心がけている。主治医との関係を密にし状況に応じ往診等を受けるなど対応している。	○	スタッフそれぞれが一人ひとりの疾病への理解を深め、些細な病状の変化を捉え早期対応ができるように心掛けていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は処方される際に薬情があるため、それらを活用し職員それぞれが内容を把握している。服薬内容が変更になったときなどは、記録やミーティングを利用し情報の共有に努めている。	○	職員全員が薬への理解が深められるように勉強会などで取り上げ、理解を深めて行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が原因で認知症状を憎悪につながることに捉え、個々に排泄のチェックと内服によるコントロールをしている。飲水が多く取れるようにお茶の回数を増やしたり、牛乳を毎日取るなど食事内容や提供方法を工夫している。日々の体調管理の中でも腹部状態を観察している。	○	腸の動きを高められるような運動や、腹部マッサージなどさまざまな方法を検討し、定期的な自然排便が促せるよう努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、それぞれの状況に応じた援助を行い口腔ケアを行っている。口腔内の汚れはさまざまな病気の誘引となると職員一人ひとりが理解しケアにあたっている。	○	歯科医や歯科衛生士などの専門性を持った方々と協力し口腔ケアの重要性を入居者はもちろんその家族の方々と共に理解を深めて行きたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事をチェックし、バランスよく摂取できるように食事内容に配慮している。水分摂取が多くなるように茶碗の工夫などしている。利用者個々の嗜好に合わせた飲み物や習慣に合わせた水分摂取ができるように配慮している。	○	個々の病状や身体状況に合わせた食事内容を検討し、栄養バランスやカロリー計算など必要に応じて栄養士などに相談して行きたい。食の楽しみを持てるような内容や提供方法を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し対応している。研修会などで情報収集に努め、職員勉強会にてスタッフ間で共有するようにしている。日ごろからうがい・手洗いを迎行している。環境整備の際には拭き取り掃除を重点的に行っている。	○	より知識の習得に努め、適宜、マニュアルの見直しを行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機を使用したり、食器や調理器具の消毒を行い、衛生管理に努めている。新鮮で安全な食材を使うことに心がけ、食材の賞味・消費期限に注意をして期限切れが生じないように管理している。手洗い・うがい・エプロンの使用を徹底している。	○	調理器具の衛生管理をより徹底させていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は段差をなくし靴の履き替えなどに便利なように椅子やベンチを配置している。玄関にはプランターや花壇を置いたり、七夕飾り、正月飾りなど季節に応じた飾りをして入りやすい雰囲気づくりに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には行事ごとの写真や作成した貼り絵などを飾り楽しむことが出来るようにしている。玄関先、居間にはプランターや花壇を配し季節感を採り入れている。作業中には音楽をかけたり、テレビなどは入居者と相談しつけたり消したりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファやコタツ・リビングテーブルなどそれぞれに過ごせるようにしている。廊下にはベンチを置き一人で過ごしたり、気の合う仲間同士でくつろげる場所となっている。玄関先にはベンチがあり天気の良いときは外で過ごすことも出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅ではないと認識を持っている入居者に対し入居の際にはなじみのものを置くことを最小限としている。入居者の生活状況が落ち着き次第徐々に使い慣れたものをおくように配慮している。ご家族との写真を飾ったり、使っていた布団や家具を持参していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内全体として一日2回の換気を行うこととしている。居室にはエアコンにて空調管理としている。各入居者の状況に合わせて温度の調整をしている。共同生活の場所は温湿度計を確認しながら適宜調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全体的にバリアフリーに作られている。トイレは車椅子の方も利用できるように手すり等の設置をしている。居室には必要に応じてベッドの利用や手すり代わりにするように家具の設置に配慮している。	○	個々の残された能力を見分け、それぞれの方々にあった援助を考えて行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの居室には名前の大きく書いたドアプレートを作成したり飾り付けをしたりと居室がわかりやすいように工夫している。トイレや浴室にはわかりやすい表示をして対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には畑や花壇があり季節ごとに花などが楽しめるようにしている。畑ではさまざまな野菜などを栽培し収穫を楽しめるようにしている。玄関にはベンチがあり日常的に玄関先に出て過ごしている。隣接して神社があり御参りに出かけたりにしている。	○	可能な限り各居室からも外に出て季節の移り変わりが感じられるように工夫をしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

鬼無里なかよしハウス

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

山間地に位置し自然あふれる環境の中、四季の織り成す色合いを感じながら日々の生活を送ることが出来ます。職員と入居者がともに過ごすゆったりとした時間や空間を意識し、ともに「なかよく」生活が送れるようにかかわりを持つことで相互の信頼関係を築いている。ホーム隣の農園では四季折々の農作物を作り入居者の皆さんが培ってきた生活背景を捉えている。

法人として行政からの意向により、閉鎖として検討されているが、未だ方針が決定されずにいる。その為に職員の活気も低下しているが、利用者本位の生活を支え住み慣れた地域で生活できるグループホームの重要性を再認識し、入居者や家族の皆様にご不安を与えないようにと、職員一丸となり意気高揚し今後もより良いケアに繋げて行けるように努めている。